

(第6次犬山市総合計画) 基本構想P

まちの将来像 (案)

～水と緑と伝統～

みんなつながり みんなうるおう

豊かさ実感都市「犬山」

～水と緑と伝統～

たくさんある犬山市の魅力の中でも、歴史、文化、自然。

犬山らしさを出すために、自然を水（木曾川をはじめとする市内を流れる川や入鹿池に代表されるため池など）と緑（飛騨木曾川国定公園など）という言葉で表現しました。また、水と緑とすることで、犬山市の田園風景も表わしています。

歴史、文化については、伝統という言葉で表現しました。伝統には、これまで培われてきたものだけでなく、これから伝統を作り上げていこうという思いを込めています。

みんなつながり みんなうるおう

地域や産業、資源など、様々な分野でヒト、モノ、コトが、時には分野を超えてつながることで、日々の暮らしが豊かになったり、新たな価値や活動が創造されていきます。

他にも、現在、過去、未来といった時間的なつながりも含んだものとなり、現在だけでなく未来のことも考えた持続可能なまちづくりを進めていくという思いを込めています。

そして、様々なつながりを通じて、このまちで暮らす人の生活が潤うまちを目指します。

豊かさ実感都市「犬山」

このまちで暮らしている人が、このまちでの暮らしを通じて豊かさを実感できるまちを目指します。

このまちで暮らしている人が豊かさを実感しているから、周りのみんなが「犬山市に住みたい」と思うようになります。

それが人を呼び込み、持続可能なまちの実現につながります。

解説

まちの将来像では、どこのまちでも通じるものではなく「犬山らしさ」を表わすフレーズを入れるとともに、「犬山らしさ」については、市内の特定地域だけを捉えるのではなく、市内全域に住む人が共感できるものにしたと考えています。

審議会での意見や市民意識調査（アンケート）では、歴史、文化、自然といったキーワード出てきました。

「水と緑」では自然を表現するとともに、市内各地に広がる田園風景の表現としても捉えられると考え、この言葉を選択しました。

歴史、文化につきましては、伝統という言葉で表現しています。犬山の歴史、文化、そして暮らしが結びついていることから、それらを包含する伝統という言葉を選んでいきます。

審議会でのご意見等も踏まえ、第6次総合計画のキーワードは「持続可能」と「循環」だと考えています。

これらをそのまま使ってしまうと、「音感」を損ねたり、文章が固くなってしまうと考え、「つながり」というやわらかい言葉を使用しました。

「循環」については、人の循環であったり、経済の循環、資源の循環といったように、様々な場面で必要な考え方となります。ここでは個別具体的に表現するのではなくあえて抽象的な表現にとどめ、様々な意味を包含する文章としています。

「つながり」という言葉を使うことによって、人と人との、交流や連携、協働といったつながりが連想されます。

そして、「つながり＝循環」を通じて実現したい姿として、人やまちや産業などが潤うことを記載しており、それが持続可能なまちを実現するものと考えます。まちの将来像の中に「持続可能」という言葉はありませんが、解説文の中で、その旨を記載しています。

まちづくりの考え方にも記載していますが、まちづくりの基本は暮らしている人を豊かにすることだと考えます。そしてその豊かさを実感してもらうことも大切だと考えます。

また、この審議会ではシティプロモーションについてのご意見がたくさん出されています。住んでいる人が、住み続けたいと思えるまちでないと、外の人は住みたいとは思わない。だから犬山での暮らしの豊かさを実感してもらって、住み続けたいと思ってもらいたい。そして、そのことを周りに発信してもらいたい。

これらの思いを込めて「豊かさ実感都市」としています。